

関東地区にお住まいの シニア世代の皆さまへ

環境、利便性など 住みやすさ抜群の福岡・浄水で
生涯安心して豊かに住まう新しいステージをご提案

九州電カグループの住宅型有料老人ホーム

グランガーデン福岡浄水

平成27年12月



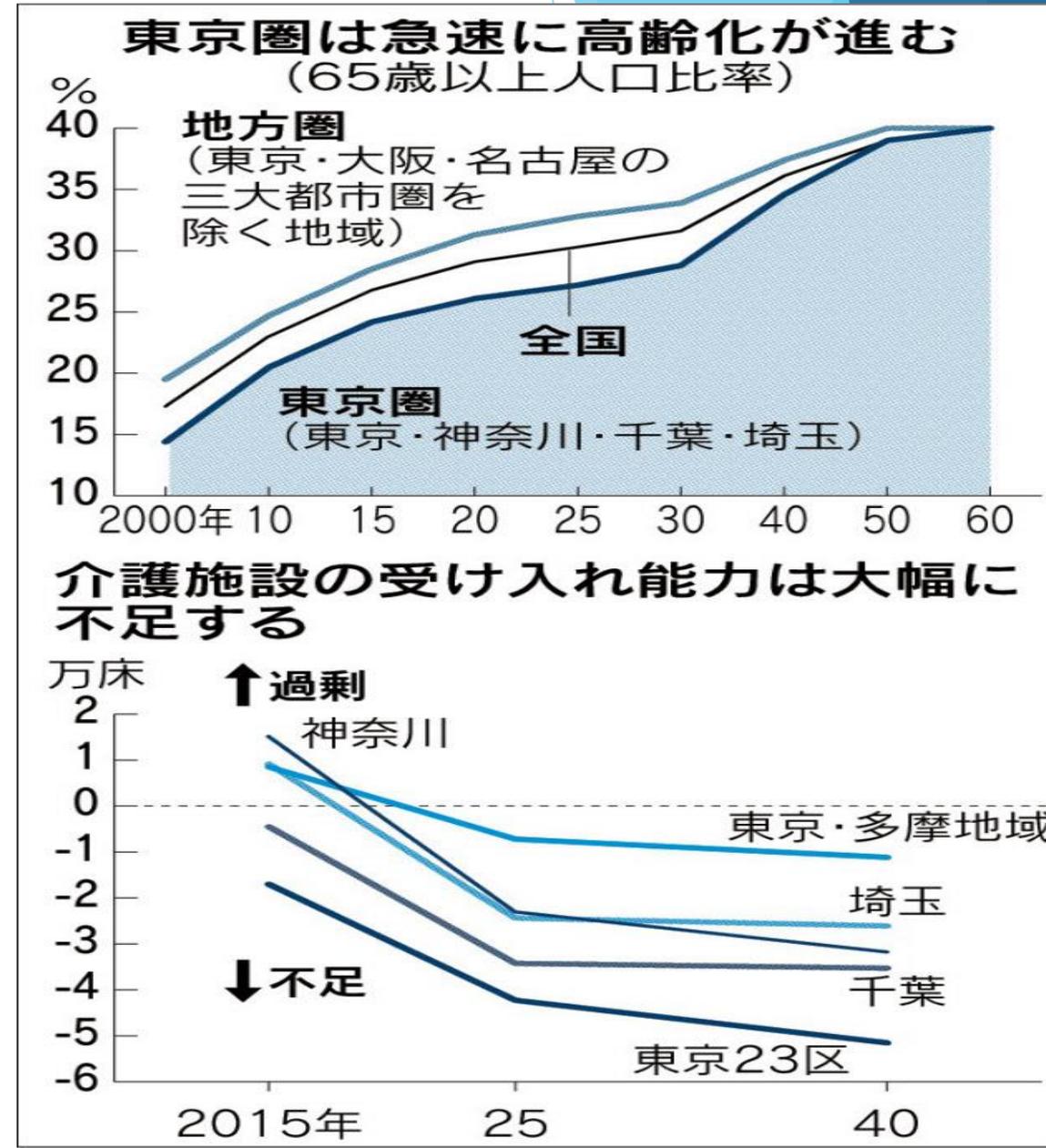
25年の東京圏、介護施設13万人分不足

創成会議、41地域へ移住提言 政府、交付金で後押し

民間有識者でつくる**日本創成会議**（座長・増田寛也元総務相は4日、東京都と周辺の3県で高齢化が急速に進み、2025年に介護施設が約13万人分不足するとの推計をまとめた。介護施設などが充実している全国41地域を例示し、高齢者に移住を促すべきだと提言した。政府は今後まとめる地方創生戦略で新型交付金を活用した高齢者移住策を打ち出す。

増田座長は都内で記者会見し、高齢者の膨大な集積が「東京一極集中のリスクになる」と述べ、東京圏での介護・医療施設不足への取り組みが急務だと指摘した。

解決策の目玉に掲げたのが医療・介護施設が整っている地方都市への高齢者の移住だ。東京圏で施設を整備しようとすると土地確保が難しいうえ、自治体などにコスト負担がのしかかる。東京圏への一層の人材流入が強まれば、「地方消滅が加速する」と指摘した。

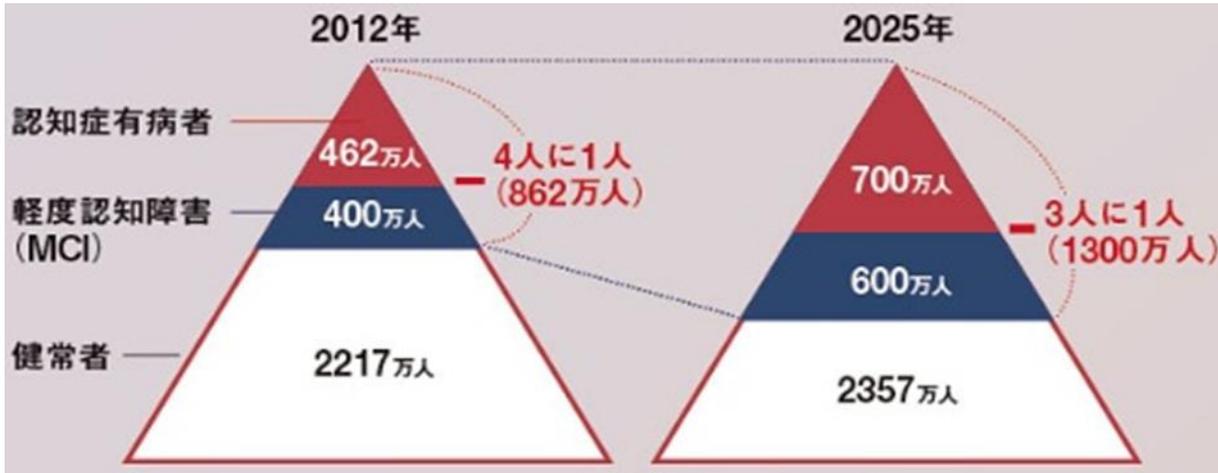


世界一の高齢化社会ニッポン 「老後に不安」が7割

～変化は突然やってきます～

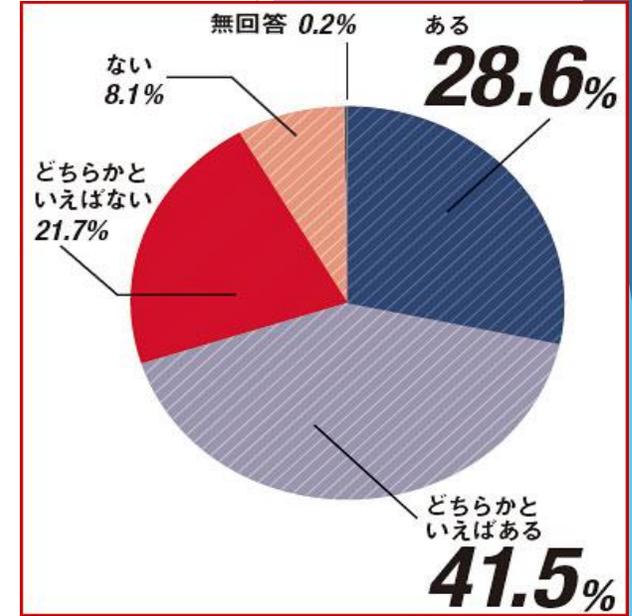
- ▶ 2015年7月日経BPコンサルティングが調査。965人から有効回答。
- ▶ 老後の不安を尋ねる質問に対し、「ある」「どちらかといえばある」と回答した人は70.1%に及んだ。その理由として、①老後資金の不足（67.5%）②年金制度などへの不信感（50.6%）③健康面での不安（34.3%）——を挙げている。高齢者の数が今後増え続け、十分な行政サービスや医療を受けられなくなる懸念が背景にある。

高齢者の4人に1人は認知症とその予備軍

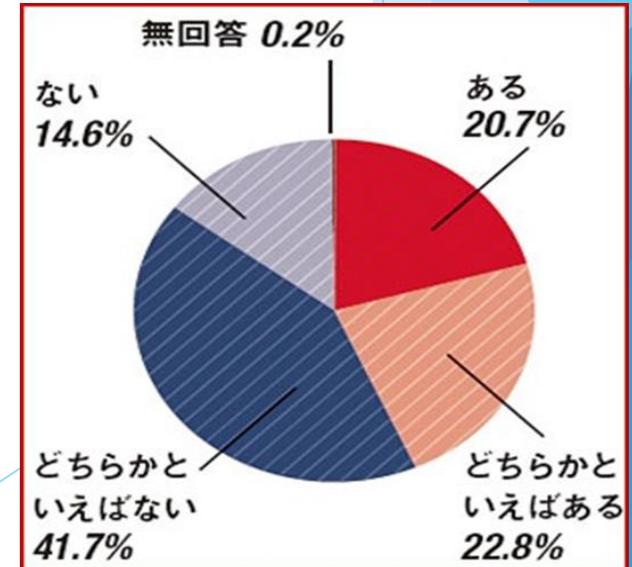


日経ビジネス 2015年9月14日号より抜粋

●あなたは老後の生活に不安がありますか



●あなたは自分が孤独死の可能性を覚えますか



有料老人ホームのイメージ変化

かつて親が老人ホームに入居することは、介護放棄と世間から見られがちでした。今は、年を取れば誰もが身体が不自由になり、人の助けを必要とすることが広く認知されています。

社会の第一線でご活躍され、ご満足いただける老人ホームで豊かな生活を過ごされることは、老後の「勝ち組」としてのステータスになりつつあります。ご子息も親が安心の住まいで過ごすことは最高の親孝行となるでしょう。

元気なうちは最後までご自宅で過ごしたいのは当然のことです。しかし、年齢を重ねていくうちに、庭の手入れをはじめ、家屋の維持管理が大変になるとともに、戸締りなどのセキュリティも不安となります。

自宅を処分せずにそのまま入居される方にとっては、住み替えというよりも、「ホテルのように過ごすイメージ」。
また、ここからお仕事に通っている方もいらっしゃいます。

しかも、24時間365日介護士・看護師が常駐し、将来の介護の心配は無用となります。



今、住みやすい都市福岡が注目

アジアの玄関口福岡。新幹線の開通は熊本、鹿児島がより近くなり、祭り好きの気質からか、博多どんたく、山笠をはじめ、いろいろなイベントごとも多く、今後はホテルの予約が困難となるようです。そして玄界灘のお魚など食事の楽しみと過ごしやすい気候。

グランガーデン福岡浄水は、福岡でも有数の住環境を誇る浄水通りに所在し、天神、博多など都心に近い利便性ととともに近隣にはお洒落なレストラン、名店など。



東京の自宅と行き来しながら、福岡でセカンドハウスとして活用。ストレスのない豊かな老後を満喫できる生活こそ、これからの究極の選択肢となることは間違いありません。お元気なうちに終の棲家として、当施設で将来の安心を確保されてはいかがでしょうか。